

り、○中略御すのうちにも、大納言二位殿琵琶播磨の内侍箏、女藏人高砂といふも琴ひくとぞ聞し、まことにやありけん、中務の宮、○尊長もまゐり給へり、兵仗たまはり給て、御直衣にたちはき給へり、御隨身どもいとさよらにさうぞきて所えたるさまなり、萬歳樂より納蘇利まで十五帖手をつくしたるいとみどころおほし、青海波をけしきばかりにてやみぬるぞわかぬ心ちしける、くれかゝる程、花の木のまに夕日はなやかにうつろいて、山の鳥もこゑをしまぬほどに、陵王のかがやき出たるは、えもいはすおもしろし、その程うへも御ひきなをして倚子につかせ給て、御笛ふかせ給、つぬよりことに雲井をひかすさまなり、宰相中將顯家、陵王の入あやをいみじうつくしてまかづるをめしかへして、前關白殿御ぞとりてかづけ給ふ、紅梅のうはぎ、二色のきぬ也、左の肩にかけて、いさゝか一曲舞てまかでぬ、右のおとゝ大鼓うち給、そのち源中納言具行探桑老を舞、これもくれなるのうちたるかづけ給ふ、又の日無量光院のまへの花の木蔭に、上達部たちつゞき給ふ、廂に倚子たてゝうへはおはします、御遊はじまる、拍子治部卿まゐる、うへもさくら人うたはせ給、御こゑいとわかくなやかにめでたし、こぞの秋ごろかどよすけちかの中納言にこの曲はうけさせ給て、賞に正二位ゆるさせ給しも、けふのためとにやありけんといとえん也、ものゝ手どもとゞのほりて、いみじうめでたし、其後歌どもめさる、花をむすびて文臺にせられたるは、保安○鳥羽のためしとぞいふめりし、春宮大夫公宗序かゝれたり、○中略よろずあかず名残おほかれど、さのみはにて、九日にかへらせ給ぬ、○又見舞

〔さかゆく花〕○上せい大將軍一はんゆうばつ○足別久しく四いをちんぶして、どこしなへにばんみむのあむせんをいたす、○中略らくやうぞやうの北、一のせう地あり、ちかごろの所をまゐららくせらる、ばんみむちからをつひやさすまて、ふじちになれること、かのれいせうにことならず、○中略ゑいとくぐわん年三月十一日ぎやうかうあり、○後融おほよそのぎは御かたたがひのこ